

関西学院大学主催
春季人権問題講演会

映画『片袖の魚』 一步踏み出して見たこと

◆2023年5月16日(火)

●午後3時10分～午後4時50分

西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂
およびオンライン同時配信

しょうじ つよし
◆講師／東海林 毅氏
(映画監督)

◆参加方法／

【会場】事前申し込み不要

【オンライン】詳細は以下の URL または
QR コードからご確認ください。

<https://qrtn.jp/z76eac>



*本講演会では、手話通訳・パソコンテイクによる情報保障を予定しています。

また、講演会は録画し、後日、字幕をつけた動画を本学 Web サイト等で配信する予定です。

■講演内容

映画やドラマなどの映像メディアにおいて「トランスジェンダーの役は当事者の俳優に」と言われているのを皆さんも聞いたことがあるのではないのでしょうか？世界的にも多数のトランスジェンダーの俳優が活躍し、トランスジェンダーの役を当事者の俳優が演じることは自然なことになりつつあります。しかしこの主張に対して「なんでも演じるのが俳優という職業では？」「役と属性の固定化につながるのでは？」といった声が日本では未だに多く聞かれます。

今回の講演では、日本で初めてトランスジェンダー当事者の俳優を一般公募のオーディションでキャスティングし制作された映画『片袖の魚』を実際に鑑賞し、なぜ「トランスジェンダーの役は当事者の俳優に」と多くの人が主張し実践しているのか、その理由について知っていただくとともに、実践を通して得た気づきや問題点についても皆さんと共有したいと思います。

■講師紹介

武蔵野美術大学在学中より活動を開始し1995年東京国際レズビアン＆ゲイ映画祭にて審査員特別賞を受賞。バイセクシュアル当事者でもあり、商業作品を監督する傍ら、主に自主作品を通してLGBTQ+と社会との関わりを探ってきた。高齢の男性同性愛者を主人公にした短編『老ナルキソス』(2017)が国内外の映画祭で10冠を獲得。『片袖の魚』(2021)では日本で初めてトランスジェンダー当事者の一般公募オーディションを行い話題となる。同名の短編を長編化した『老ナルキソス』(2022)が2023年5月20日より順次全国公開される。

*車いすでご来場の方は、お席の配慮等をいたしますので事前にご連絡ください。

総合テーマ：
「インクルーシブな
社会の実現を
目指して」
(2020～2024年度)

関西学院大学人権教育研究室

Tel 0798-54-6720 / Mail human-rights@kwansei.ac.jp